2026年度入学生用 各入試区分 試験内容・出題意図・合否基準等

探究学習評価入試（総合型選抜）

(1)学力検査等の内容

【試験方法・内容】

・発表：受験者が提出した、成果報告資料を基にした発表
　　提出した資料をプロジェクターで投影して発表
　　原稿を読みながら発表しても構わない
・口頭試問：探究学習に関わる発表内容について
　　基礎学力や志望学部・専攻に対する学習意欲について
・面接：出願書類に基づき、高校で意欲的に取り組んできたこと等について

(2)出題意図

発表と口頭試問および面接を通して、高等学校等における「総合的な探究の時間」等の探究学習の成果を用い、自らの課題を発見し、自発的に探究する資質と、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的・多面的に評価するため。

(3)合否判定の方法および基準

①配点

発表：30点
口頭試問：30点
面接：40点

②加点要素

対象資料	加点数	評価方法
調査書等	0点～10点	調査書の学習成績の状況等、学力の3要素に基づいて多面的・総合的に評価し、総合評価に加点
大学入学希望理由書	0点～10点	本学のアドミッション・ポリシーに基づき、入学時に求める能力・関心意欲や進学への目的意識を判断するとともに、学力の3要素を踏まえて総合評価に加点
民間の英語資格・検定試験のスコア	別添資料参照	英語の4技能を総合的に評価するため、本学が指定した英語資格・検定試験の結果を、別添資料「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」に照らし合わせ、総合評価に加点

①情報処理検定試験 ②ITパスポート試験 ③基本情報技術者試験 ④応用情報技術者試験	5点または10点	①～④の資格のうち、1つ取得している場合は5点、2つ以上取得している場合はいくつであっても10点を総合評価に加点。①については「公益財団法人前項商業高等学校協会」主催のものとし、複数取得している場合は10点加点。なお、級のレベルは問わない。

③合否判定に用いる要素
発表：資料の完成度、内容の理解度、発表姿勢
口頭試問：①基礎学力、志望学部・専攻に対する学習意欲についての論理的思考能力
②質問の内容を理解し、自分の考えを盛り込み、アドミッション・ポリシーに合致した回答ができている
面接：①高校で意欲的に取り組んできたこと等について、これまでどのような活動をしてきたのか、今後どのようなことをしたいと考えているのか、本学進学への目的意識等
②質問の内容を理解し、自分の考えを盛り込み、アドミッション・ポリシーに合致した回答ができている

総合型選抜

(1)学力検査等の内容

【試験方法・内容】
・レポート
テーマ：①将来の目標に向けて梅光学院大学で学びたいこと
②気になる時事問題について
テーマ①または②のいずれかを選び、自分の考えを600～800字程度でまとめたレポートを作成する
・口頭試問：作成したレポート内容についての質疑応答
基礎学力や志望学部・専攻に対する学習意欲について
・面接：出願書類に基づき、高校で意欲的に取り組んできたこと等について

(2)出題意図

本学の建学の精神やアドミッション・ポリシーを理解し、本学で学びたいという強い意志と目的意識をもっているかどうか、レポートや口頭試問、面接を通して、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的・多面的に評価するため。

(3)合否判定の方法および基準

①配点
レポート：30点
口頭試問：30点
面接：40点

②加点要素

対象資料	加点数	評価方法

調査書等	0点～10点	調査書の学習成績の状況等、学力の3要素に基づいて多面的・総合的に評価し、総合評価に加点
大学入学希望理由書	0点～10点	本学のアドミッション・ポリシーに基づき、入学時に求める能力・関心意欲や進学への目的意識を判断するとともに、学力の3要素を踏まえて総合評価に加点
民間の英語資格・検定試験のスコア	別添資料参照	英語の4技能を総合的に評価するため、本学が指定した英語資格・検定試験の結果を、別添資料「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」に照らし合わせ、総合評価に加点
①情報処理検定試験 ②ITパスポート試験 ③基本情報技術者試験 ④応用情報技術者試験	5点または10点	①～④の資格のうち、1つ取得している場合は5点、2つ以上取得している場合はいくつであっても10点を総合評価に加点。①については「公益財団法人前項商業高等学校協会」主催のものとし、複数取得している場合は10点加点。なお、級のレベルは問わない。

③合否判定に用いる要素
レポート：テーマに内容が合っており、自分の考えがはっきりと書かれていること
口頭試問：①基礎学力、志望学部・専攻に対する学習意欲についての論理的思考能力
②質問の内容を理解し、自分の考えを盛り込み、アドミッション・ポリシーに合致した回答ができている
面接：①高校で意欲的に取り組んできたこと等について、これまでどのような活動をしてきたのか、今後どのようなことをしたいと考えているのか、本学進学への目的意識等
②質問の内容を理解し、自分の考えを盛り込み、アドミッション・ポリシーに合致した回答ができている

学校等推薦型選抜

(1)学力検査等の内容

【試験方法・内容】
・口頭試問：基礎学力や志望学部・専攻に対する学習意欲について
・面接：出願書類に基づき、高校で意欲的に取り組んできたこと等について

(2)出題意図

本学の建学の精神やアドミッション・ポリシーを理解し、学力、人物ともに優れた者を書類、口頭試問、面接により、総合的・多面的に評価するため。

(3)合否判定の方法および基準

①配点
口頭試問：30点
面接：40点

②加点要素

対象資料	加点数	評価方法
調査書等	0点～10点	調査書の学習成績の状況等、学力の3要素に基づいて多面的・総合的に評価し、総合評価に加点
大学入学希望理由書	0点～10点	本学のアドミッション・ポリシーに基づき、入学時に求める能力・関心意欲や進学への目的意識を判断するとともに、学力の3要素を踏まえて総合評価に加点
民間の英語資格・検定試験のスコア	別添資料参照	英語の4技能を総合的に評価するため、本学が指定した英語資格・検定試験の結果を、別添資料「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」に照らし合わせ、総合評価に加点
①情報処理検定試験 ②ITパスポート試験 ③基本情報技術者試験 ④応用情報技術者試験	5点または10点	①～④の資格のうち、1つ取得している場合は5点、2つ以上取得している場合はいくつであっても10点を総合評価に加点。①については「公益財団法人前項商業高等学校協会」主催のものとし、複数取得している場合は10点加点。なお、級のレベルは問わない。

③合否判定に用いる要素
口頭試問：①基礎学力、志望学部・専攻に対する学習意欲についての論理的思考能力
②質問の内容を理解し、自分の考えを盛り込み、アドミッション・ポリシーに合致した回答ができている
面接：①高校で意欲的に取り組んできたこと等について、これまでどのような活動をしてきたのか、今後どのようなことをしたいと考えているのか、本学進学への目的意識等
②質問の内容を理解し、自分の考えを盛り込み、アドミッション・ポリシーに合致した回答ができている

一般選抜

A日程・B日程

(1)学力検査等の内容

【試験方法・内容】
英語と国語、2科目の学力試験
(a)出題範囲
英語：英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、論理表現Ⅰ（リスニングは実施しない）
国語：現代の国語・言語文化、近代以降の文章を出題（古典（古文・漢文）は含まない）

(b)出題形式
英語：マークシート式と記述式（全体の10%程度）の併用
国語：マークシート式と記述式（全体の20%程度）の併用

(2)出題意図

本学の建学の精神やアドミッション・ポリシーを理解し、本学の教育水準にふさわしい基礎学力を持っているかどうか、学力試験と出願書類を用いて、学力の3要素を総合的・多面的に評価するため。
試験科目ごとの出題意図・方針については、以下の通り。
英語：基礎的な学力、論理的思考力等が身についているかどうかを確かめるため、文法、語い、発音に関する知識や文章を読み取る能力を問う問題を出題。
国語：基礎的な学力、論理的思考力等が身についているかどうかを確かめるため、語句の解釈、文章の把握、文法、文学史、漢字に関する問題を出題。

(3)合否判定の方法および基準

①配点
英語：150点
国語：150点
各専攻ごとの配点は以下の通り。

入試日程	入試科目	国際学部国際言語文化学科			子ども学部 子ども未来学科
		国際教養専攻	国際観光マネジメント専攻 英語コミュニケーション専攻 国際ビジネス専攻	東アジア言語 文化専攻	児童教育専攻 幼児保育専攻
A日程 B日程	英語	150点	200点	150点	150点
	国語	150点	100点	150点	150点

②加点要素

対象資料	加点数	評価方法
調査書等	0点～10点	調査書の学習成績の状況等、学力の3要素に基づいて多面的・総合的に評価し、総合評価に加点
自己PRシート	0点～100点	本学のアドミッション・ポリシーに基づき、入学時に求める能力・関心意欲や進学への目的意識を判断するとともに、学力の3要素を踏まえて総合評価に加点
民間の英語資格・ 検定試験のスコア	別添資料参照	英語の4技能を総合的に評価するため、本学が指定した英語資格・検定試験の結果を、別添資料「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」に照らし合わせ、A・B日程入試科目「英語」の得点とする。なお、C日程「小論文」の場合は、総合評価に加点

①情報処理検定試験 ②ITパスポート試験 ③基本情報技術者試験 ④応用情報技術者試験	5点または10点	①～④の資格のうち、1つ取得している場合は5点、2つ以上取得している場合はいくつであっても10点を総合評価に加点。①については「公益財団法人前項商業高等学校協会」主催のものとし、複数取得している場合は10点加点。なお、級のレベルは問わない。

③合否判定に用いる要素
300点を満点とし、獲得した点数によって判定する。

C日程

(1)学力検査等の内容

【試験方法・内容】
小論文：3年以内に発行された論文、書籍、新聞記事、雑誌記事、インターネット記事等を読んで、考えたことや指示されたことを800字以内で論述する。

(2)出題意図

本学の建学の精神やアドミッション・ポリシーを理解し、学力、人物ともに優れた者を書類、小論文により、総合的・多面的に評価するため。

(3)合否判定の方法および基準

①配点
100点

②合否判定に用いる要素
100点を満点とし、獲得した点数によって判定する。

大学入学共通テスト成績利用入試

(1)学力検査等の内容

【試験方法・内容】
以下に示す大学入学共通テストの教科・出題科目等一覧の通り、本学では、必修科目「外国語」と選択科目群から１科目を選出して2科目で選考する。

・必修科目 外国語
『英語』（筆記・リスニングの合計得点）
東アジア言語文化専攻を志願する場合は、『中国語』もしくは『韓国語』の成績を『英語』に代えることができる。

・選択科目群
国語 『国語』

地理歴史
公民
（a） 『地理総合／歴史総合／公共』
（b） 『地理総合，地理探究』『歴史総合，日本史探究』『歴史総合，世界史探究』『公共，倫理』『公共，政治・経済』
数学
① 『数学Ⅰ，数学A』『数学Ⅰ』
② 『数学Ⅱ，数学B，数学C』
理科 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』
情報 『情報Ⅰ』

【大学入学共通テストの出題教科・科目等一覧補足事項】
・『』内記載のものは出題科目
・(a) 『地理総合／歴史総合／公共』は3つのうち2つを選択
・『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は2つで1科目とし、4つのうちから2つを選択し、5つの出題科目から最大2科目を選択
・一覧は、新教育課程履修者等に対応。旧教育課程履修者等に関する出題科目等については、大学入試センター「受験案内」で確認のこと

(2)合否判定の方法および基準

①配点
300点
各専攻ごとに定められた配点に換算して利用。配点は以下の通り。
・必修科目：専攻ごとに定められた配点に換算して利用
・選択科目：受験した科目全てを専攻ごとに定められた配点に換算して、得点の高いものを1つ利用
・『英語』は、「筆記の得点」＋「リスニングの得点」の合計点を、専攻ごとに定められた配点に換算

入試日程	入試科目	国際学部国際言語文化学科			子ども学部 子ども未来学科
		国際教養専攻	国際観光マネジメント専攻 英語コミュニケーション専攻 国際ビジネス専攻	東アジア言語 文化専攻	児童教育専攻 幼児保育専攻
全日程	必修科目	150点	200点	150点	150点
	選択科目	150点	100点	150点	150点

②合否判定に用いる要素
300点を満点とし、獲得した点数によって評価する。

別添資料

民間の英語資格・検定試験のスコアの活用について

2018年３月に文部科学省から示された通り、英語４技能を測ることのできる資格・検定試験等の結果を入試の得点に活用するため、本学の入試では、それらの資格・スコアを所持している場合、得点に加点または換算して評価点とする仕組みとなっています。
英語資格・検定試験スコアは、高校在学中から出願時点までに確定したもの全ての中で、最もスコアが高いものを対象とし、文部科学省が指定する英語資格・検定試験のスコアを「各資格・検定試験とCEFRの対照表」（文部科学省指定）に基づいて換算した得点を、総合評価に加点、または換算して評価点として利用します。
加点・評価点はそれぞれ、入試区分や専攻別の配点数によって異なります。以下の表で確認してください。
なお、本学の全ての入試において、資格・スコアがなくても受験することができます。

● 入試区分および専攻別加点数・評価点数【別表】

【加点数】

CEFR	A1	A2	B1	B2	C1	C2
総合型選抜 学校等推薦型選抜 一般選抜C日程	加点なし		30点	50点	80点	100点

【評価点数】

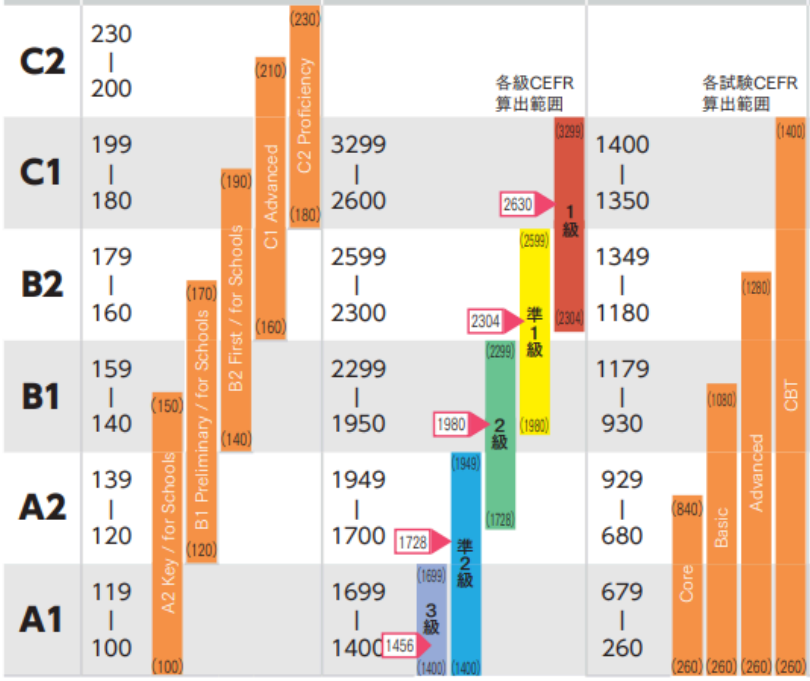
「英語」（一般選抜）または「外国語」（大学入学共通テスト）の得点と、CEFR評価点（各資格・検定試験スコア）のうち、いずれか高い点数を、当該科目の得点とします。

一般選抜A・B日程・大学入学共通テスト成績利用入試		CEFR			
専攻	英語・外国語の配点	A1	A2	B1	B2・C1・C2
国際教養・東アジア言語文化 児童教育・幼児保育	150点	評価なし	90点	120点	150点
英語コミュニケーション 国際観光マネジメント 国際ビジネス	200点	評価なし	120点	160点	200点

● 各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省(2018年3月)

CEFR	ケンブリッジ英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 | 200			9.0 | 8.5				
C1	199 | 180	3299 | 2600	1400 | 1350	8.0 | 7.0	400 | 375	800	120 | 95	1990 | 1845
B2	179 | 160	2599 | 2300	1349 | 1180	6.5 | 5.5	374 | 309	795 | 600	94 | 72	1840 | 1560
B1	159 | 140	2299 | 1950	1179 | 930	5.0 | 4.0	308 | 225	595 | 420	71 | 42	1555 | 1150
A2	139 | 120	1949 | 1700	929 | 680		224 | 135	415 | 235		1145 | 625
A1	119 | 100	1699 | 1400	679 | 260					620 | 320



は各級合格スコア

※括弧内の数値は、各試験におけるCEFRとの対象関係として測定できる能力の範囲の上限と下限

○ 表中の数値は各資格・検定試験の定める試験結果のスコアを指す。スコアの記載がない欄は、各資格・検定試験において当該欄に対応する能力を有していると認定できないことを意味する。

※ ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定及びGTECは複数の試験から構成されており、それぞれの試験がCEFRとの対照関係として測定できる能力の範囲が定められている。当該範囲を下回った場合にはCEFRの判定は行われず、当該範囲を上回った場合には当該範囲の上限に位置付けられているCEFRの判定が行われる。

※ TOEIC L&R/ TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する。

※ 障害等のある受検生について、一部技能を免除する場合等があるが、そうした場合のCEFRとの対照関係については、各資格・検定試験実施主体において公表予定。

出典:文部科学省ウェブサイトより「英語４技能評価の導入について①（平成29年７月13日実施方針概要）」参考資料2 大学入学者選抜改革の進捗状況

※「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」は一部スコアを変更しています。